

うさぎさん と おおかみさん

うさぎさんが散歩していました。もう夏になりかけでしたから、きれいな花が咲いていました。そしていい匂いがしていました。

一人で歩くのは、うさぎさんには、初めてです。なぜといって、うさぎさんは小学校の二年生でしたから。一人だったので、とても怖かったのです。うさぎさんは大変背が低いでしょう。ですから、鼻の先に見えるものは、草と、葉ばかりでしたから、ずっと前や、後ろから、何が出てくるか、ちっともわかりません。



ところが、後ろの方で、がさがさといふ音がしたのです。うさぎさんは胸の中がひっくり返るほどびっくりしました。

がさがさ言う音が、とてもひどく、近くなりました。そして、後ろを振り向いて見ましたら、毛だらけの、目が二つあって、口の大きなものが、ちらりと見えました。

うさぎさんは、

「どうぞ、ごめんなさい。わたしはとてもよい子ですから。」と言おうと思いましたが、声が出ませんでした。それで、どんどん逃げ出しました。

すると、うさぎさんの後から、おおかみさんが一匹とび出して来て、うさぎさんを追っかけました。

うさぎさんは、どんどん駆けました。おおかみさんもどんどん追っかけました。

うさぎさんは、お終いに足が動かなくなって、倒れました。おおかみさんが、うさぎさんを捕まえました。

「ぼくだよ。うさぎくん。」とおおかみさんが言いました。よく見ると、学校で同じ級のおおかみさんだったのです。

うさぎさんは、どんなにうれしかったでしょう。それからのち二人は、とても仲のよいお友達になりました。(村山籌子)

A Hare and A Wolf

A hare was taking a walk. As it was spring, beautiful flowers were blooming and smell nice.

It was the first time when she walked alone. As she was still a second-grade pupil, she felt frightened so much.

She was so short that she saw nothing but grass and leaves in front of her. She didn't know at all what would appear ahead and rear.

Then she heard a rustling sound from the rear. She was so surprised. That sound came nearer to her. When she turned back, she saw a figure with body hair, two eyes and a big mouth.

“I'm so sorry, but I'm a good hare.”

She wanted to say so, but she couldn't give a voice. So she couldn't help running away.

Then a wolf jumped out and ran after the hare.

The hare ran and ran away. The wolf ran and ran after the hare.

At last the hare got tired and fell down. The wolf caught the hare.

“It's me. Miss. Hare.” said the wolf.

He was the wolf in her school-class.

She got so relieved.

Soon they got good friends.

(Original by Murayama Kazuko: 2024.7.28 by Kudo)

